

## 西迫マツ子さんの話①

### 学徒動員の日々

#### 西迫マツ子さん

昭和十九年六月十二日から昭和二十年八月十五日まで呉海軍工廠に動員されました。狩留賀女子宿舍 杏浦中学校のあった場所）に宿泊し、切串火薬工場などで働きました。毎朝、若葉町まで行進し、船に乗って通っていました。）

#### 海軍工廠で働く



手榴弾や棒地雷に火薬をつめる仕事でした。とても危険な仕事です。いつも上官・上司の見回りが二十分おきくらいにあります。二十分おきくらいに来られます。軍服姿を見ると緊張して、あわてて背筋を伸ばしたものです。

お弁当箱は、しみのある汚らしい木箱でした。中に入っているのは、麦・こりやんがほとんどで、米粒は少しだけのごはん。おかずは、塩昆布やたくわんがあったり、なかったりでした。いつもおなかがすいていました。

お弁当を食べる前に水を一杯飲むと、おなかがいっぱいになるよ。」

と聞いて、実行したりしました。

火薬を扱う仕事なので、冬もストーブをつけることができません。とても寒くて、みんなで押しくらまんじゅうをして暖まりました。



## 大和を見送る



ある日のこと。  
事務所の方が自転車で駆けつけて、  
今、『大和』が出発します。」  
と教えてくださいました。厳しいきまりも何のその、みんなで一斉に岸壁へ飛び出しました。  
潜水艦や巡洋艦に守られて、ひととき大きな「大和」が目の前を進みます。甲板からマストから、白い服の兵隊さんたちがぎっしりと整列し、白い帽子を振っておられました。こちらみんなど、出征兵士を見送る歌を一生懸命に歌い、手を振り、大和を見送りました。  
でも、今、このことを思うと…。

昭和二十年八月十五日。

工廠にいる人全員が集合してラジオを聞きました。

よく聞こえなかったけれど、何となく戦争が終わったことや日本が負けたことを感じ取りました。

急に上官が、

学徒は直ちに乗船せよ。」

と言われ、その足で船に乗り、寄宿舎に帰りました。

翌日には満員電車に乗り我が家に帰りました。

お世話になった上官の方にお礼も言えずに帰ったことがずっと心残りでした。

戦後三十三年たって、手を尽くして捜し出した上官の方たちとクラス会を持つことができませんでした。そこで言われたのは…。

ラジオ放送を聞いた直後、

手榴弾をください、わたしたちは死にます。」

と言ってきた生徒がいたのだ。

ここには何をするかわからない、せつかく今まで命があったものをと、直ちに乗船を命じたのだ。また元気で、いつの日か会おう。」の一言も言えず、今まで胸につかえていた。

## 西迫マツ子さんの話②

### 今、振り返って思うこと

私たちは皆で一生懸命に歌い、「大和」を送りました。でも…、あの歌を歌わなければよかった。

いざ行け、つわもの、日本男児。」

と送り出す歌なんか、歌わなければよかった。と、今は思うのです。

戦争が終わって何か月もたってからわたしたちが見送った「大和」がまもなく沈められたことを知りました。

わたしたちに手を振った水兵さんたちも、ほとんどの方が亡くなりました。

私たちは死にます。」

と言った女学生達は、



自分たちが頑張って敵をやっつけてやる。」

と思いきんでいたから、負けたと分かかって責任を感じたんでしょね…。

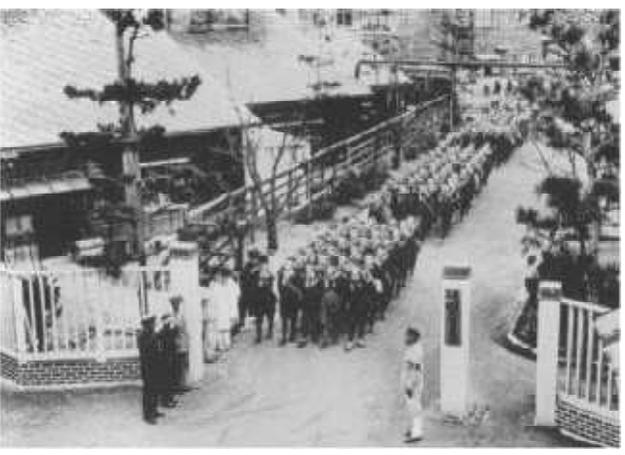
それだけ、国のために戦うんだと、純粹に思いこまされていたんでしょね…。

でも、あのとき死ななくてよかったと、生きているのはすばらしいことだと、本当にそう思います。平和になって、結婚して、子どもが生まれて、

子どもってどうしてこうかわいいのだろう。この子を戦場に送るようなことがあってはならない。」

と、我が子を戦場に送られたお母さんに思いをはせました。おいしいものを食べると、ふとこんなことを夫に話したりします。

おいしいねえ。あの頃はこんなおいしいものなかったねえ。戦争で亡くなられた方は、こんなおいしいものを食べることがあったんかねえ…。」



〔提示資料〕



写真① 吉浦中学校にある石碑

1 質問①「何と書かれているのでしょうか。」

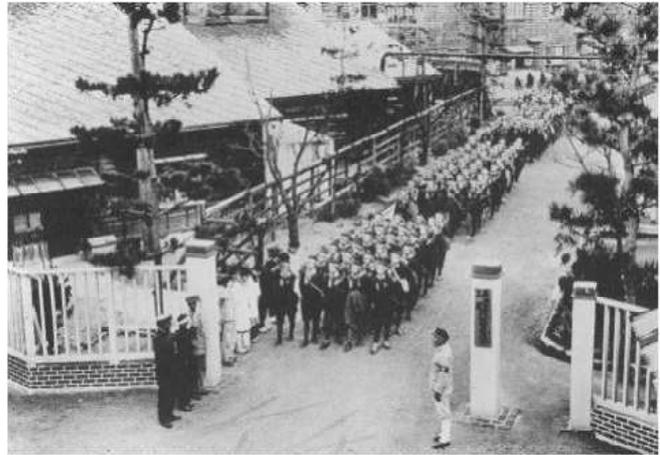
くれかいぐんこうしょうじよしどういんがくとしゆくしやあと

「呉海軍工廠女子動員学徒寄宿舎跡」

○ 今から70年ほど前吉浦中学校があるこの場所は、呉の海軍工廠で働く女子学生たちの寄宿舎(寮)がありました。現在の中・高校生に当たる女子学生たち4000人がこの寄宿舎にいました。



写真② 朝会の様子



写真③ 海軍工廠に出勤する行進の様子

2 質問②「どんな仕事をしたのでしょうか。」

○ 呉海軍工廠(海軍の兵器・弾薬などを製造・修理する工場)で働きました。金属で作られた兵器を、旋盤(せんばん)という機械を使って加工したり、火薬を作ったり、爆弾に火薬をつめたりする等、難しい仕事・危険な仕事等を行いました。

3 質問③「空襲とはどんなものでしょう。」

○ 海軍鎮守府のあった呉は、たびたび空襲をうけました昭和20年6月22日には、海軍工廠が空襲をうけ、動員された学生たちも含め、何百人もの犠牲者が出ました。昭和20年7月1日の空襲では、市街地を中心に2000人以上の方が亡くなりました。

4 質問④「終戦はどんな様子だったのでしょうか。」

○ 昭和20年8月15日、正午のラジオ放送で終戦が伝えられました。動員学徒隊はその日のうちに解散となりました。

(写真②③ 呉市海事歴史科学館所蔵)